



令和3年1月20日
海上保安庁

測量船「光洋」がいよいよ就役！

平成28年12月に関係閣僚会議で決定した「海上保安体制強化に関する方針」に基づき、海洋調査体制の強化の一環として整備を進めてきた大型測量船「光洋」が、令和3年3月16日に就役します。

「光洋」は、昨年1月に就役した「平洋」の同型船であり、「平洋」と同じく海上保安庁最大の測量船です。

この度、就役する測量船「光洋」は、マルチビーム測深機に加え、海底下の地層を探查する機器や海底の泥等を採取する機器を搭載しています。また、推進器に「アジマススラスタ」を採用しており、360度どの方向にでも推進力を向けることが可能となることで船位の定点保持能力が増し、精密かつ効率的な海洋調査の実施が可能となります。

測量船「光洋」は、就役後、日本海や東シナ海等において、我が国の海洋権益の確保に必要な海底地形や地質に関する調査等に従事します。

○測量船「光洋(こうよう)」(別紙 1,2 参照)

所 属	本庁海洋情報部
船 型	大型測量船
番 号	HL12
就 役 日	令和3年3月16日
総 トン 数	約4,000トン
長 さ	約103メートル
幅	約16メートル
主要装備	アジマススラスタ、マルチビーム測深機、 音波探查装置、採泥器
船名由来	光り輝く海、まだ十分に解明されていないその海に光を当てて、 海洋調査を進め明らかにしていくという思いを込め命名。



HL12 光洋



主要目等

総トン数：約4,000トン

長さ：約103メートル

推進器：アジマススラスタ（※）

※ 舵とスクリューが一体となっており、360度任意の方向に推進力を向けることが可能な推進装置



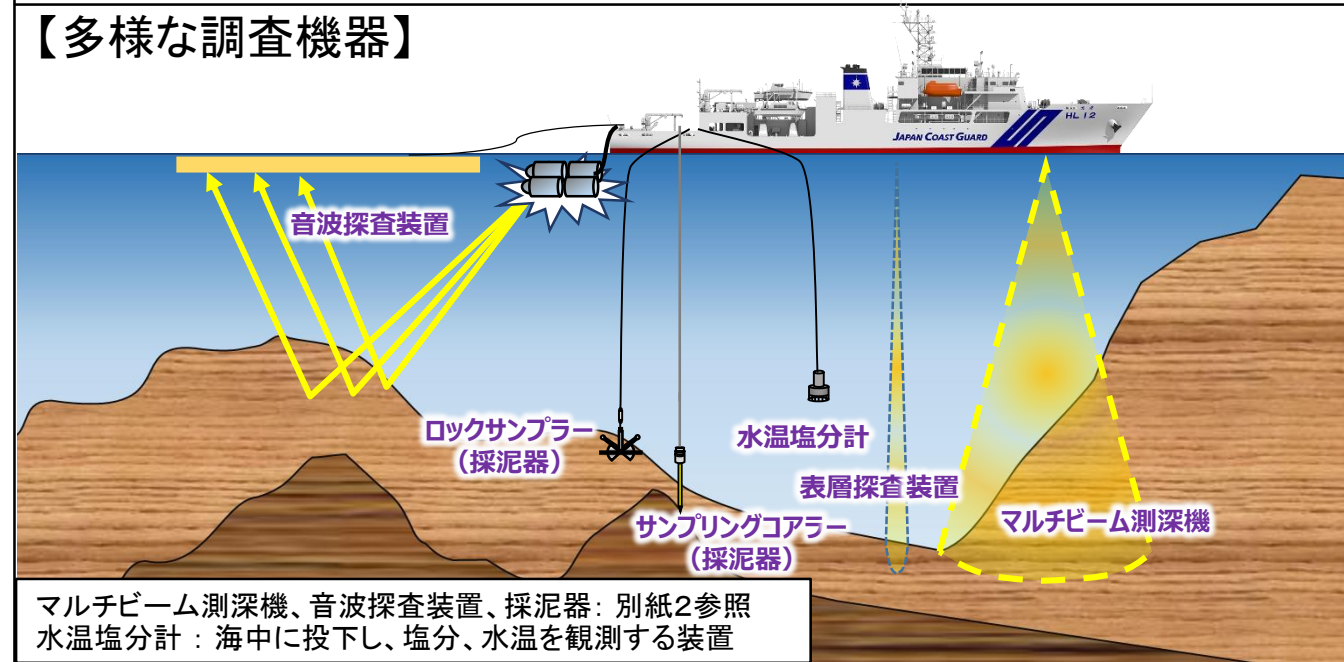
主要任務

日本海、東シナ海等における、海底の地形及び地質に関する情報の取得

特徴

○定点保持能力 (アジマススラスタの採用)	○防振、防音性能 (電気推進の採用)	○低速航行能力 (電気推進の採用)
一定の位置に留まる能力が増すことにより、精密かつ効率的な海洋調査の実施が可能	観測データに影響を与える船体の振動や雑音を防止することにより、精密かつ正確な観測データの取得が可能	電気推進の採用により、海洋調査に必要な長時間低速での航行が可能

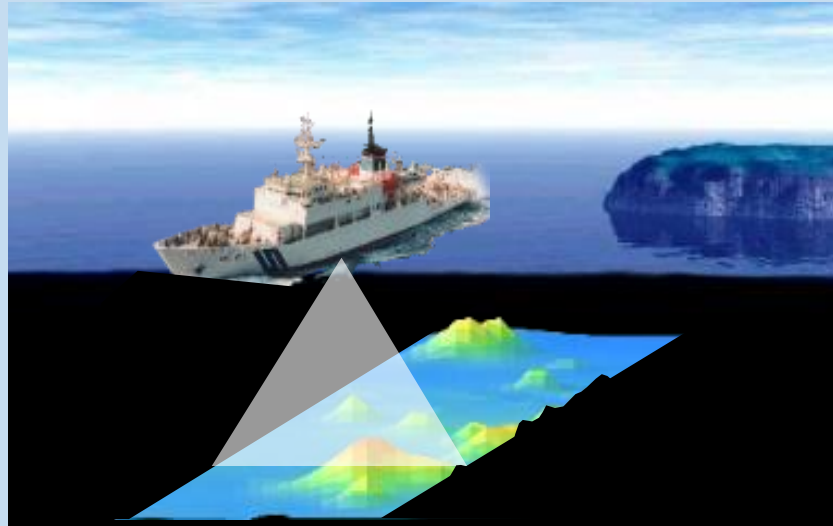
【多様な調査機器】



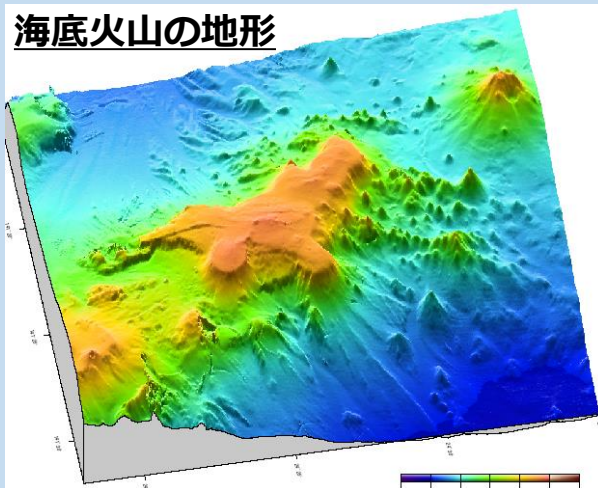
マルチビーム測深機、音波探査装置、採泥器：別紙2参照
水温塩分計：海中に投下し、塩分、水温を観測する装置

マルチビーム測深機

海底に向けて広角に音波を出し、音波の往復時間と水中での音の速度から水深を計測します。
船の航跡に沿って水深の約3倍以上の幅で、最大約11,000mの深さの海底地形を明らかにすることができます。
(参考 マリアナ海溝の深さ:10,920m)

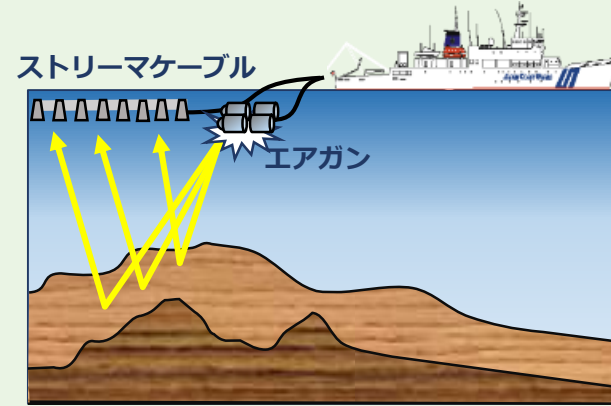


海底火山の地形



音波探査装置

人工的に強力な音波を発生させ、海底下の地質構造などを調査します。



エアガン



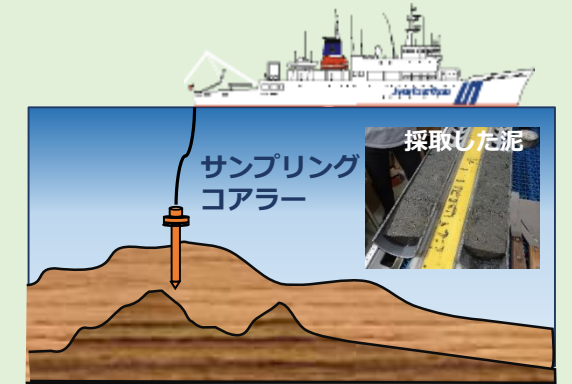
ストリーマケーブル

採泥器 (サンプリングコアラ・ロックサンプラー)

採泥器を使用し、直接海底から海底堆積物を採取します。

サンプリングコアラ

柱状に海底下の堆積物等を採取する。



ロックサンプラー

海底表面の堆積物等を採取する。

